

柳下孤村 りゅうげこく 俳人。明治十六年四月十七日東京小石川雜司ヶ谷生れ、大正九年八月十一日没（二八三—九三〇）。本名一郎。家業は米屋。早くから俳句に親しみ、大西一外を俳友として首田竹冷の師事した。秋聲會の俳誌『卯杖』、『木太刀』に據り頭角を現はす。

『元祿明治時代俳句選』(春の部・大正四年四月十八日木太刀社)を編輯

出版。没後の『孤村句集』(大正十一年八月三十一日柳下友次編輯)

には隨筆を附載、岡本綺堂の序がある。